

タケムラ　　シゲオ
竹村 繁男

1953　京都山科に生まれる
1972　京都市立日吉ヶ丘高校陶芸科卒業、木村盛伸先生に師事する
1975　第四回日本工芸会近畿支部展初入選以来毎年入選
1980　独立し山科に大日窯を開窯する
1988　第三五回日本伝統工芸展入選
1996　第二五回日本伝統工芸近畿展 奨励賞受賞
2007　36回　日本伝統工芸近畿展京都府教育委員会 教育長賞受賞
2008　日本工芸会 第36回新作陶芸展 日本工芸会賞受賞
2010　「第39回日本伝統工芸近畿展」にて鑑査委員
2018　日本陶磁協会奨励賞「関西展」入選
現在　日本工芸会正会員/京都府美術工芸作家協会会員

素地は半磁器を用い強度を持たしながら、外側は黒い土を塗り
光沢を押さえました。内側にかかっているのは杉の木の灰釉です。
灰釉に用いた杉は北山杉の間伐材で、この間伐材は京蒲鉾の板に
使われています。これの残りを灰にした物が原料です。
表面に薄く掛かっている白い釉薬は京都産の葡萄の剪定
（せんてい）した枝を焼いて灰にした物です。
https://kogei.kyoto/artists/takemura_shigeo.html